

兵庫県ラグビースクールの生徒保護者の皆さま及びコーチの皆さまへ

兵庫県ラグビースクール医療班

いつもお世話になり、ありがとうございます。

練習中や試合中に発生した「脳振盪」「脳振盪の疑い」の選手に対する対応に関して、保護者の皆さまやコーチの皆さまの一部の方に、誤解があるのではということですので、説明をさせていただきます。

現在ワールドラグビーでは（日本ラグビーフットボール協会でも）、中学生以下の選手は、練習中や試合中の頭部外傷の結果、「脳振盪」とか「脳振盪の疑い」という判断を受けた時は、その後に脳外科や神経内科等の医師の診察を受けて、CT スキャンや MRI その他の診察の結果などで異常なしと診断されても、**23日間**の G RTP（段階的競技復帰プロトコール）を経て、復帰をする必要があります。そのように決められているのです。画像診断の上で異常なしでも、脳振盪の症状があったということは、脳の細胞に何かしらの損傷があったということを示しているからです。

「脳振盪」「脳振盪の疑い」の判断をする当事者は、大きな大会の試合中であれば、「レフェリー」「チーム責任者」「マッチドクター」の3名です。マッチドクターのいない練習試合のような試合であれば、レフェリーとチーム責任者ということになります。練習中であれば、チーム責任者とチームドクターという場合もあるでしょうし、チーム責任者のみのこともあるでしょう。いずれにしても、医師が不在の時でも、そのように判断されることがあります。その判断をする時の基準となる説明文書は、日本ラグビーフットボール協会のホームページの中の安全対策の文書（別添『ラグビー外傷・障害対応マニュアル 2022 年版』12～19ページご参照）の中に、詳しく記載されています。一度ご覧くださいませようお願い申し上げます。

以上